

和歌山県立医科大学附属病院 眼科

当科の特徴

当科では眼科専門医が8名在籍しており、指導医体制が整っています。また、白内障手術としてはセンチリオンやシグネイチャーなどの白内障手術機器、硝子体手術としては最新のコンステレーションが導入されており、27ゲージによる硝子体手術が可能となっています。また、関連施設ではレーシックを超えた第三世代の視力矯正手術「ReLEx SMILE」も可能で最先端の治療を経験でき、また、チン氏帯脆弱などの白内障の難症例に対しては白内障手術用レーザー装置（カタリスレーザーシステム）を使用して安全な白内障手術を行える様にしています。また、連携施設である紀北分院、和歌山労災病院、海南医療センターでは白内障の手術が豊富であり、眼科専門医の基準となる内眼手術を多く経験できるように配慮しています。

卒後1、2年目の臨床研修（初期研修）終了後、3年目から4年間は新専門医制度に準拠した「和歌山県立医科大学眼科学専門研修プログラム」に従って研修を行います。

眼科では眼科専門医の取得を目指すほか、眼疾患の病態の把握のための研究にも力をいれています。学位を取得する希

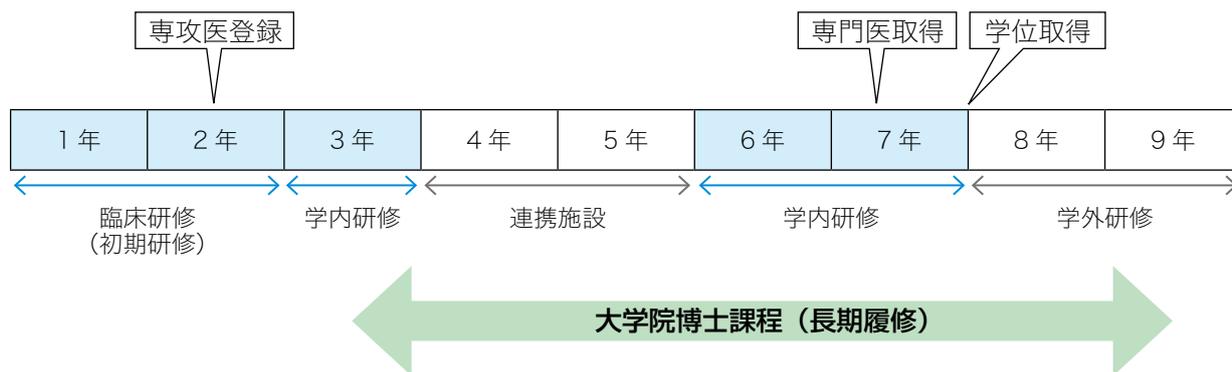
望者が多く、希望者には大学院に入学して、外科系において重要である創傷治癒を基本とした角膜の創傷治癒、網膜の創傷治癒、白内障手術後の水晶体上皮における創傷治癒、緑内障後の瘢痕における創傷治癒などを研究し、大学院卒業時には学位取得が可能となります。



ローテーション例

一般枠コース

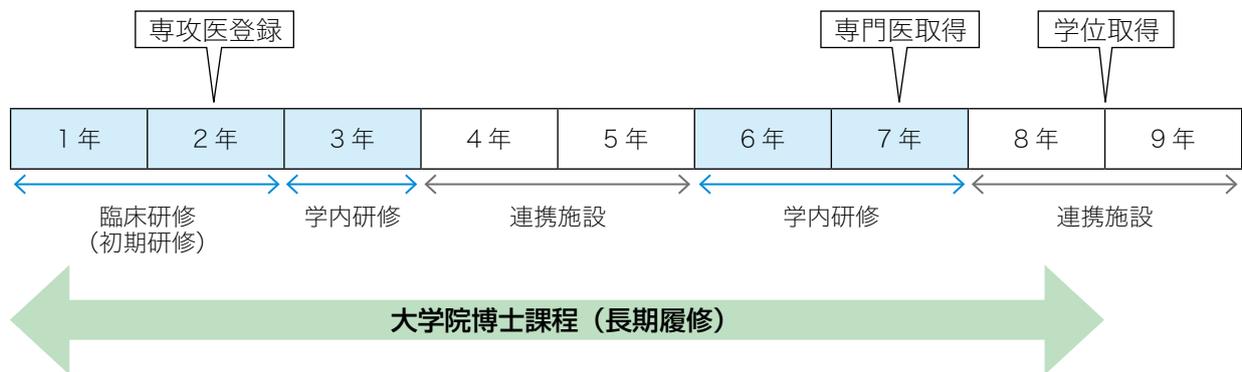
※ □ は学内研修



一般枠医師については原則プログラムのローテーションに従って研修を行います。

詳細は卒後臨床研修センターHP (<http://www.wakayama-med.ac.jp/med/sotugo/koki/koki-program.html>) に載っています。

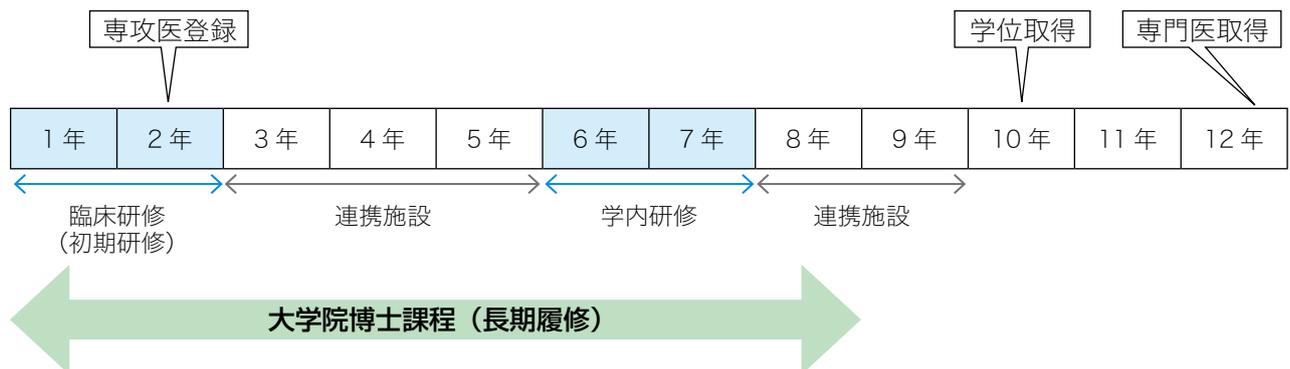
ローテーション例 県民医療枠コース ※ □ は学内研修



県民医療枠コースでは3年目は基幹施設である和歌山県立医科大学附属病院で研修を行います。4年目、5年目は地域中核病院である紀北分院や海南医療センター等で研修し、基本領域専門医取得後は大学に戻って、研究や高度な医療に携わります。また、地域中核病院で後輩の指導を行いながら、週1回は大学で研究を行ったり、一般外来もしくは専門外来にて臨床をすることで地域中核病院で活躍できる医師を目指します。

希望者は大学院に入学し、9年目には学位を取得する予定です。

ローテーション例 地域医療枠コース ※ □ は学内研修



地域医療枠コースでは臨床研修（初期研修）の後、3年から5年目まではへき地医療拠点病院等で研修を行います。6、7年目には大学に戻ることによって高度な医療にも触れる機会があり、8、9年目にはへき地医療拠点病院等で後輩の指導にあたりながら眼科のみならず、総合医や家庭医としてのスキルを磨いていきます。

なお、眼科専門医は眼科臨床経験5年目に取得予定となっています。

研修目標

眼科研修プログラムによる専門研修により、「誰でも安心して任せられる眼科医」を目標とし、

- 1) 眼科領域におけるあらゆる分野の知識と技術の習得
- 2) 診断から治療まですべての診療に関するマネジメント能力の習得
- 3) 他科との連携によるチーム医療実践能力の習得などを通じて、眼科領域における幅広い知識、練磨された技能と、高い倫理性を備えた眼科の専門医となる。

経験目標

眼科では専門医を取得するために以下の修了条件がある。

1. 症例経験基準数、手術件数については、執刀者、助手合わせて 100 例以上
そのうち、内眼手術、外眼手術、レーザー手術がそれぞれ執刀者として 20 例以上)
2. 年次ごとの研修到達目標の達成
3. 学術活動
論文：筆頭著者として一篇以上の学術論文を執筆すること。
学会発表：日本眼科学会総会ならびにその関連学会で 2 回以上学術発表を行うこと。

教授からのメッセージ



雑賀 司珠也 教授

感覚情報の大部分を担う眼科診療について、皆様はどのような捉え方をしておられますか？眼科に限らず機能を維持、回復させるスタイルの診療科はこれからの

からの少子高齢化社会の中で「健康寿命」に極めて重要といえるのではないのでしょうか？

特に高齢化の中での視機能維持は極めて重要な項目と思います。一方で、新生児、小児の眼疾患も、患児の一生を左右する極めてクリティカルな診療領域です。私どもでは大学附属病院内や講座関連施設での最新眼科医療機器で手術を行っています。日帰り手術にも力を入れています。白内障手術の大部分、網膜硝子体手術の 25%が日帰りで施行されています。高齢化の中で手術当日もご自宅で過ごすことは認知症対策にもなるのではないのでしょうか？

ぜひ、私どもと一緒に、次世代眼科医療を切り開きませんか！



最先端の白内障レーザーシステム



最先端の硝子体手術機器

当科で取得可能な専門医と指導体制

研修施設	眼科専門医
和歌山県立医科大学附属病院	8名
和歌山県立医科大学附属病院紀北分院	3名
海南医療センター	2名
和歌山ろうさい病院	2名